



おーい！くじらぐも

Vol.23 2023年（令和5年）5月号

発行人：(福)健翔会 相談支援センターくじらぐも

所在地：埼玉県行田市小見1141番地1

TEL:048-580-3634 FAX:048-554-8814

MAIL:kujiragumo@kenshokai.net

発行責任者：くじらぐも センター長 細川竜太

福祉サービスを利用するためには「くじらぐも」が作る『サービス等利用計画』が必要です。

「くじらぐも」は障害者総合支援法により、障害者・障害児に対し相談支援事業を提供する健翔会の第4号事業所です。

福祉サービス以外にも、お困りのことがありましたらお気軽にご相談ください。



建設機材を扱う企業がオープンした農園をご紹介します。主に「ベビーリーフ」を栽培し出荷しています。



障害者雇用に苦慮している企業と働く場を探している障害者の方を農業によるマッチングを行う農園です。



映画館ではバリアフリー化が進んでいます。視覚・聴覚障害の方も気軽に映画が楽しめる器具を使った工夫です。

『フィクトセクシャルとは？ ～結婚したい人がいます～』

先日、くじらぐものご利用者から、結婚したい相手がいると相談があり、話を聞いてみると、その相手は世の中に実在しない二次元のアニメキャラクターでした。本人からは、精神的に追い詰められているときに、いつも側にいてくれたとのこと。調べてみると、このような形の結婚は公的では認められていませんが、民間会社が結婚証明書なる物を発行しているそうです。

架空のキャラクターに性的魅力を感じることを「フィクトセクシャル」と言い、一方で恋愛的魅力を感じるのであれば「フィクトロマンティック」と言います。二次元のキャラクターに性的・恋愛を感じることは、端から見ると現実逃避の現れだと誤解を受けることが多く、本人は至って真剣で「たまたま実在する人ではなく“実在しないキャラクター”へ性的・恋愛感情が向いた」だけであり、現実と非現実の区別もついているようでした。本人のストレンクス(強み)として考えてみると、大抵の人は実在しないからと割り切ることができますが、このような感情を持つ人は漫画自体を日常に当てはめる、感受性が豊かな人なのでしょう。

この方からは、「生身の人間と関わるのが面倒」とも話がありました。実在しなくても、私の心と共に生きているという感じでしょうか。この方は、そのキャラクターと結婚することで、精神が安定すると言っていたので、本人にとっては心地よいものであり、私たちの言葉は手も足も出ないということもわかりました。そして、理解してもらおうとは思っておらず、同じ感情の人だけに共感されればそれで十分とも言っていました。

今回、話を聞いて、周囲の環境によってフィクトセクシャルの存在が大きく左右されると感じました。この方は、親や友人に自分の感情を話しても否定されなかったとのこと。もしかしたら、この方そのものの人柄が良いのかもしれません。結婚まで辿り着き、相手がいる生活している姿は人によって感じることは様々。ただ、本人は幸せそうでした。一番はそこです。不安定な位置に属する方ですが、愛は生身の人間より一途に向いているように感じ取れました。

<5月のトピックス>

私事ですが、先日息子と「ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー」を見てきました。私はバリバリのスーパーマリオ世代。映画は、昔と今を融合させた素晴らしい作品でした。今となっては古くても、その時代に輝いていたものを、現代の技法を使って蘇らせる。人間の凄さを感じました。福祉にもぜひ、そのテクニックやアイデアを取り入れて、すべての人が生活しやすい世の中が作れるといいですね。